

結果の概要

1 ふだん医療機関にかかる時の情報の入手先

ふだん医療機関にかかる時に「情報を入手している」者は、外来が 80.7%、入院が 83.6%、「特に情報は入手していない」者は、外来が 16.3%、入院が 14.1%となっている。

「情報を入手している」者について、情報の入手先別にみると、外来、入院ともに「家族・友人・知人の口コミ」が最も高く、外来で 68.4%、入院で 66.7%、次いで、外来では「医療機関が発信するインターネットの情報」が 28.8%、入院では「医療機関の相談窓口」が 24.0%となっている。(表1)

表1 外来－入院別にみたふだん医療機関にかかる時の情報の入手先(複数回答)

	総数	情報を入手している	情報の入手先(複数回答)										特に情報は入手していない	不詳	
			医療機関の相談窓口	医療機関が発信するインターネットの情報	パンフレットなどの広告	行政機関の相談窓口	(医療機能情報提供制度など)インターネットの情報	行政機関が発信する広報誌やパンフレット	行政機関が発信するインターネットの情報(SNS、電子掲示板、ブログの情報を含む)	医療機関・行政機関以外が発信するインターネットの情報	新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組	家族・友人・知人の口コミ			その他
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)			(%)
外 来	100.0	80.7 (100.0)	(14.6)	(28.8)	(5.6)	(2.1)	(3.9)	(3.5)	(18.1)	(4.0)	(68.4)	(10.3)	16.3	3.0	
入 院	100.0	83.6 (100.0)	(24.0)	(21.4)	(6.7)	(5.4)	(4.3)	(3.9)	(14.4)	(5.3)	(66.7)	(13.9)	14.1	2.3	

2 予約の状況、診察等までの待ち時間、診察時間(外来患者のみ)

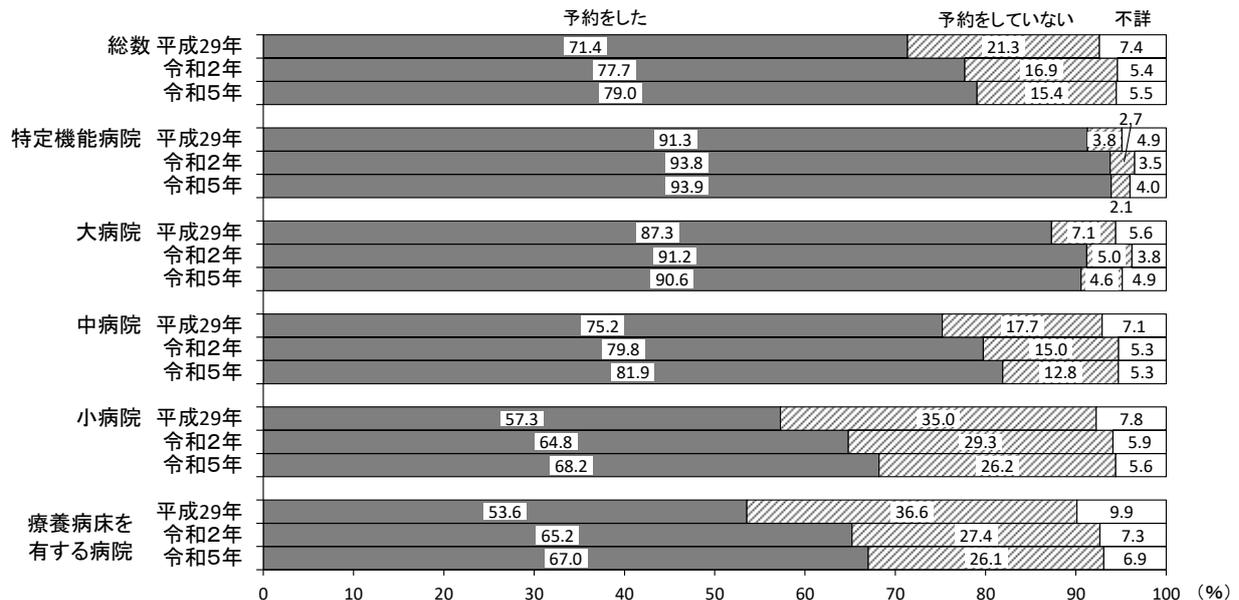
(1) 予約の状況

外来患者の予約の状況をみると、「予約をした」は 79.0%となっている。

病院の種類別にみると、「予約をした」は特定機能病院が 93.9%と最も高い。次いで、大病院が 90.6%、中病院が 81.9%となっている。

また、前回と比べると、小病院で「予約をした」が 3.4 ポイント上昇している。(図1)

図1 病院の種類別にみた外来患者の予約の状況

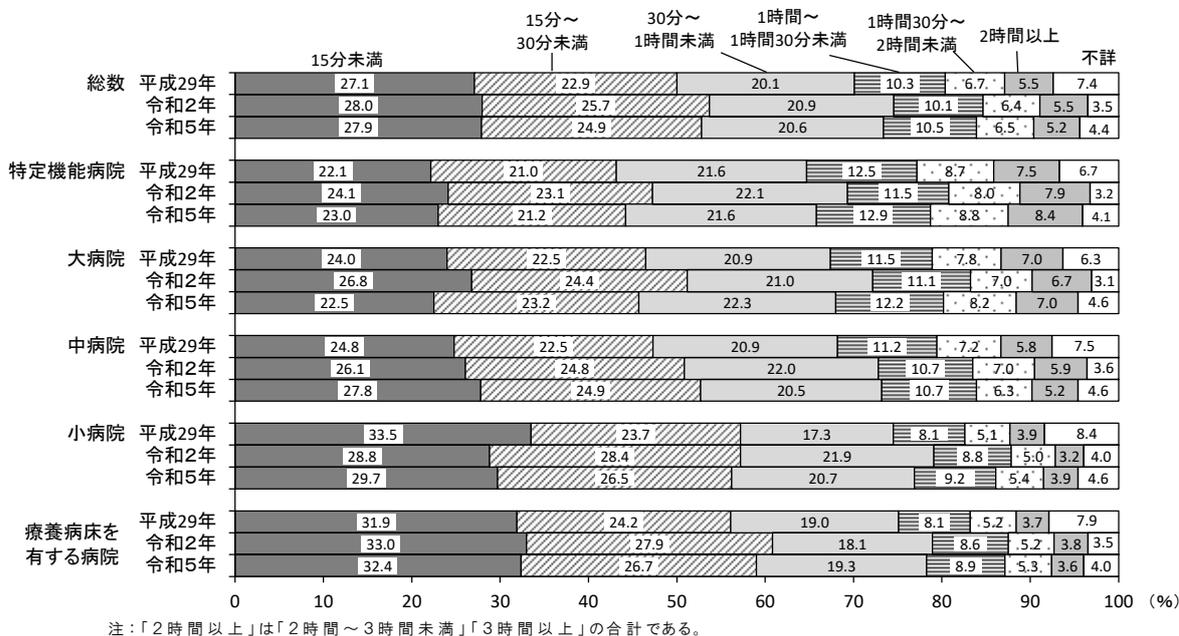


(2) 診察等までの待ち時間

外来患者の診察等までの待ち時間をみると、「15分未満」が27.9%と最も多く、次いで、「15分～30分未満」が24.9%、「30分～1時間未満」が20.6%となっており、1時間未満（「15分未満」「15分～30分未満」「30分～1時間未満」）が約7割となっている（図2、統計表1）。

病院の種類別にみると、大病院を除く全ての病院で「15分未満」が最も多くなっている（図2）。

図2 病院の種類別にみた外来患者の診察等までの待ち時間



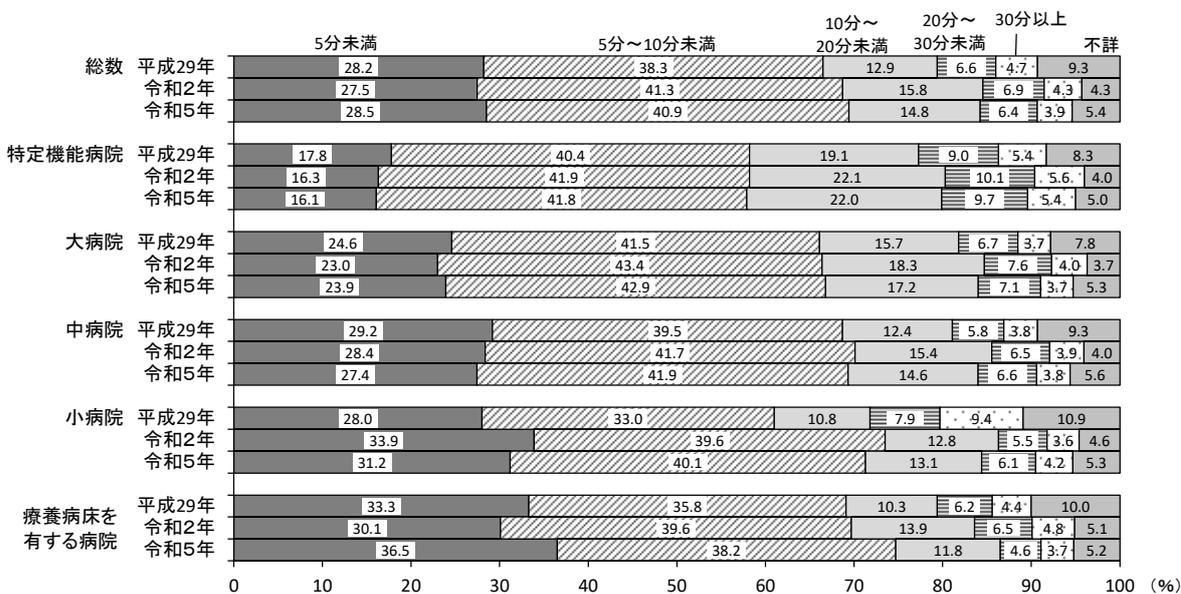
注：「2時間以上」は「2時間～3時間未満」「3時間以上」の合計である。

(3) 診察時間

外来患者の診察時間をみると、「5分～10分未満」が40.9%と最も多く、次いで、「5分未満」が28.5%、「10分～20分未満」が14.8%となっている（図3、統計表2）。

病院の種類別にみると、「5分未満」は療養病床を有する病院で36.5%と最も高く、特定機能病院で16.1%と最も低くなっている（図3）。

図3 病院の種類別にみた外来患者の診察時間



注：「医師に診てもらっていない」者を除いた数値である。

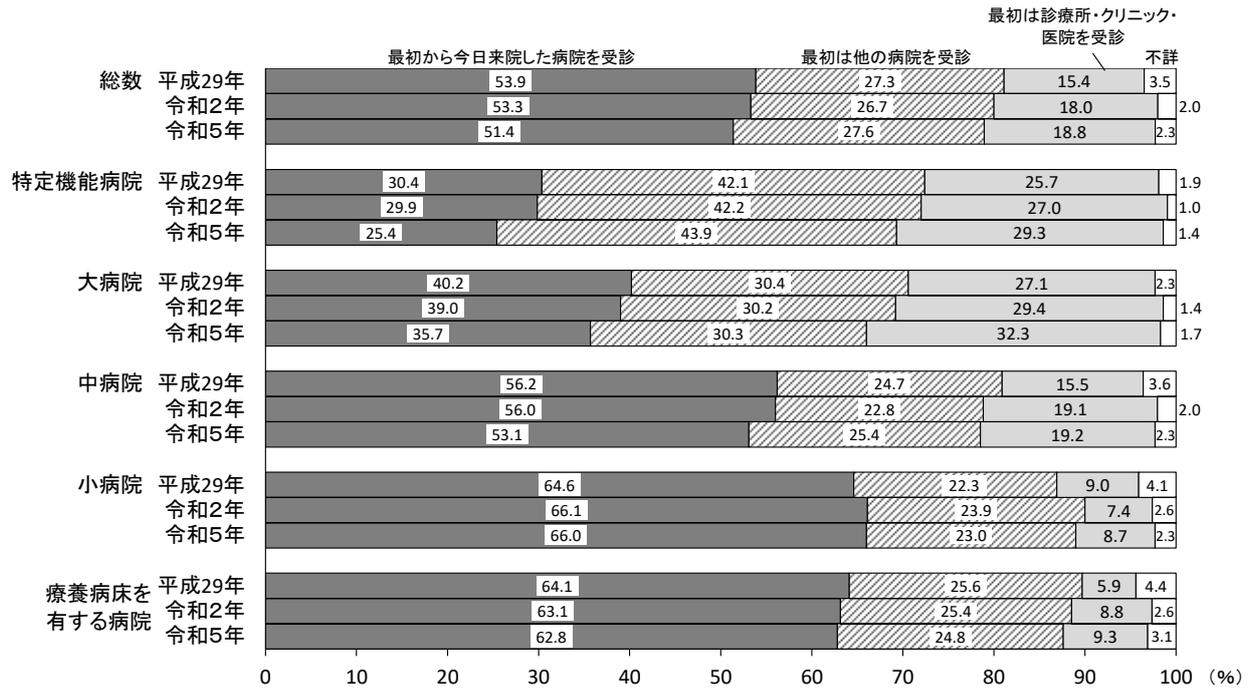
3 最初の受診場所（外来患者のみ）

外来患者が、調査日現在に受診した病気や症状について最初に受診した場所をみると、「最初から今日来院した病院を受診」が 51.4%と最も多く、次いで、「最初は他の病院を受診」が 27.6%、「最初は診療所・クリニック・医院を受診」が 18.8%となっている。

病院の種類別にみると、特定機能病院では「最初は他の病院を受診」が 43.9%と最も多く、それ以外の病院では「最初から今日来院した病院を受診」が最も多くなっている。

また、年次推移をみると、特定機能病院及び大病院では「最初は診療所・クリニック・医院を受診」が平成 29 年以降、約 3 割となっており、上昇している。（図 4）

図 4 病院の種類別にみた外来患者の最初の受診場所



注：「診察・治療・検査などを受ける」ため来院した者の数値である。

4 自覚症状の有無、自覚症状はなかったが受診した理由、受診までの期間（外来患者のみ）

（1）自覚症状の有無、自覚症状はなかったが受診した理由

外来患者が、調査日現在に受診した病気や症状を初めて医師に診てもらった時、「自覚症状があった」は66.1%、「自覚症状がなかった」は28.4%となっている（図5、統計表3）。

「自覚症状がなかった」と回答した者の受診した理由をみると、「健康診断（人間ドックを含む）で指摘された」が45.9%と最も高くなっている。

また、年次推移をみると、「健康診断（人間ドックを含む）で指摘された」が上昇している。（図6、統計表3）

図5 外来患者の自覚症状の有無

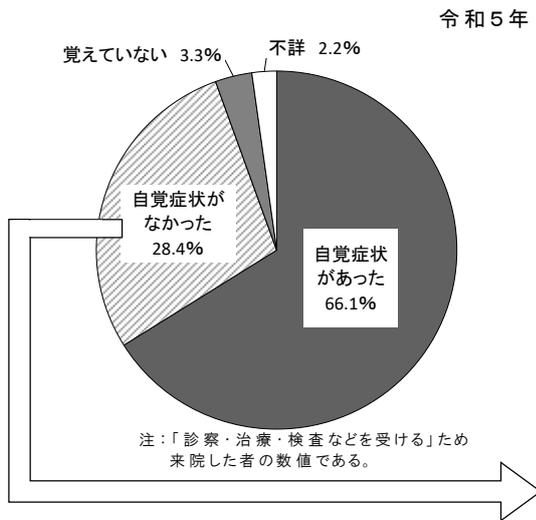
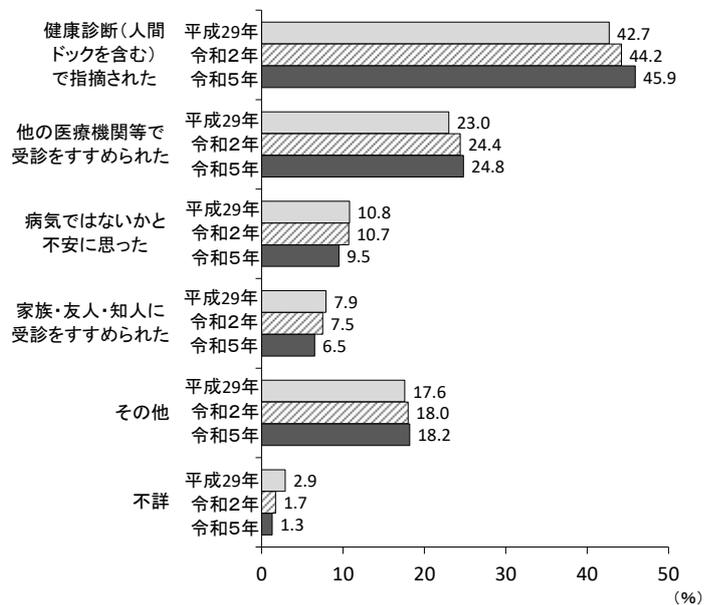


図6 外来患者の自覚症状はなかったが受診した理由（複数回答）



（2）受診までの期間

「自覚症状があった」「自覚症状がなかった」と回答した者について、受診までの期間（症状を自覚した時から、又は自覚症状がなかったが受診した理由が生じた時から最初の受診までの期間）をみると、「1週間～1か月未満」が19.9%と最も多く、次いで、「1～3日」が15.0%となっている。

自覚症状の有無別にみると、「自覚症状があった」では「1～3日」「1週間～1か月未満」が17.6%と最も多く、「自覚症状がなかった」では「1週間～1か月未満」が25.4%と最も多くなっている。（表2、統計表4）

表2 自覚症状の有無別にみた外来患者の受診までの期間

	総数	令和5年							覚えていない	不詳
		24時間未満	1～3日	4～6日	1週間～1か月未満	1か月～3か月未満	3か月以上			
総数	100.0	11.0	15.0	8.5	19.9	11.8	11.9	14.5	7.4	
自覚症状があった	100.0	13.4	17.6	9.0	17.6	11.1	13.6	12.7	5.1	
自覚症状がなかった	100.0	5.5	8.8	7.5	25.4	13.3	8.1	18.8	12.7	

注：「診察・治療・検査などを受ける」ため来院した者で、「自覚症状があった」者及び「自覚症状がなかった」者の数値である。

5 医師からの説明の有無、説明の程度

病気や症状に対する診断や治療方針について、医師から「説明を受けた」者は、外来で 96.3%、入院で 94.2%となっている。

医師から「説明を受けた」者について、「説明は十分だった」は外来で 94.5%、入院で 91.8%、「説明は十分ではなかった」は外来で 5.5%、入院で 8.2%となっている。(表3)

表3 外来－入院、病院の種類別にみた医師からの説明の有無、説明の程度

(単位:%)

令和5年

	総数	説明を受けた									説明を受けていない	不詳
		説明は十分だった	十分ではなかった	説明は十分だった	十分ではなかった	説明は十分だった	十分ではなかった	説明は十分だった	十分ではなかった	説明は十分だった		
外来	100.0	96.3 (100.0)	(94.5)	(60.4)	(34.1)	(5.5)	(4.0)	(1.5)	0.7	3.0		
特定機能病院	100.0	97.6 (100.0)	(94.5)	(60.8)	(33.8)	(5.5)	(3.9)	(1.6)	0.4	1.9		
大病院	100.0	97.4 (100.0)	(94.2)	(59.7)	(34.5)	(5.8)	(4.1)	(1.6)	0.6	2.0		
中病院	100.0	96.2 (100.0)	(94.6)	(60.5)	(34.1)	(5.4)	(3.9)	(1.5)	0.8	2.9		
小病院	100.0	96.7 (100.0)	(94.6)	(61.6)	(32.9)	(5.4)	(3.9)	(1.6)	0.3	3.0		
療養病床を有する病院	100.0	95.0 (100.0)	(94.3)	(59.8)	(34.5)	(5.7)	(4.1)	(1.5)	0.8	4.2		
入院	100.0	94.2 (100.0)	(91.8)	(63.8)	(28.0)	(8.2)	(5.3)	(2.9)	2.5	3.3		
特定機能病院	100.0	98.2 (100.0)	(95.7)	(71.0)	(24.7)	(4.3)	(3.3)	(1.0)	0.4	1.4		
大病院	100.0	96.7 (100.0)	(94.5)	(69.7)	(24.7)	(5.5)	(3.8)	(1.7)	1.1	2.2		
中病院	100.0	95.2 (100.0)	(93.8)	(68.5)	(25.4)	(6.2)	(4.3)	(1.9)	1.7	3.1		
小病院	100.0	95.6 (100.0)	(94.6)	(68.5)	(26.1)	(5.4)	(3.8)	(1.6)	1.2	3.2		
療養病床を有する病院	100.0	92.1 (100.0)	(88.5)	(56.9)	(31.7)	(11.5)	(7.0)	(4.5)	3.9	4.1		

注：外来は「診察・治療・検査などを受ける」ため来院した者の数値である。

年次推移をみると、医師から「説明を受けた」者について、「説明は十分だった」は、平成 26 年以降、外来、入院ともに9割以上で推移している(表4)。

表4 外来－入院別にみた医師からの説明の有無、説明の程度の年次推移

(単位:%)

	総数	説明を受けた									説明を受けていない	不詳
		説明は十分だった	十分ではなかった	説明は十分だった	十分ではなかった	説明は十分だった	十分ではなかった	説明は十分だった	十分ではなかった	説明は十分だった		
外来	平成26年	100.0	95.6 (100.0)	(94.0)	(58.8)	(35.2)	(6.0)	(4.3)	(1.7)	0.5	3.9	
	平成29年	100.0	95.1 (100.0)	(94.3)	(59.7)	(34.7)	(5.7)	(3.9)	(1.7)	0.6	4.3	
	令和2年	100.0	96.8 (100.0)	(94.5)	(60.0)	(34.5)	(5.5)	(4.0)	(1.5)	0.6	2.6	
	令和5年	100.0	96.3 (100.0)	(94.5)	(60.4)	(34.1)	(5.5)	(4.0)	(1.5)	0.7	3.0	
入院	平成26年	100.0	94.3 (100.0)	(93.6)	(67.0)	(26.6)	(6.4)	(4.4)	(2.0)	2.2	3.5	
	平成29年	100.0	94.7 (100.0)	(93.3)	(66.7)	(26.6)	(6.7)	(4.4)	(2.3)	1.8	3.5	
	令和2年	100.0	94.2 (100.0)	(93.1)	(65.5)	(27.5)	(6.9)	(4.5)	(2.5)	2.0	3.8	
	令和5年	100.0	94.2 (100.0)	(91.8)	(63.8)	(28.0)	(8.2)	(5.3)	(2.9)	2.5	3.3	

注：外来は「診察・治療・検査などを受ける」ため来院した者の数値である。

6 今後の治療・療養の希望（入院患者のみ）

入院患者の今後の治療・療養の希望をみると、「完治するまでこの病院に入院したい」が40.8%で最も多く、次いで、「自宅から病院や診療所に通院しながら、治療・療養したい」が35.1%となっている。

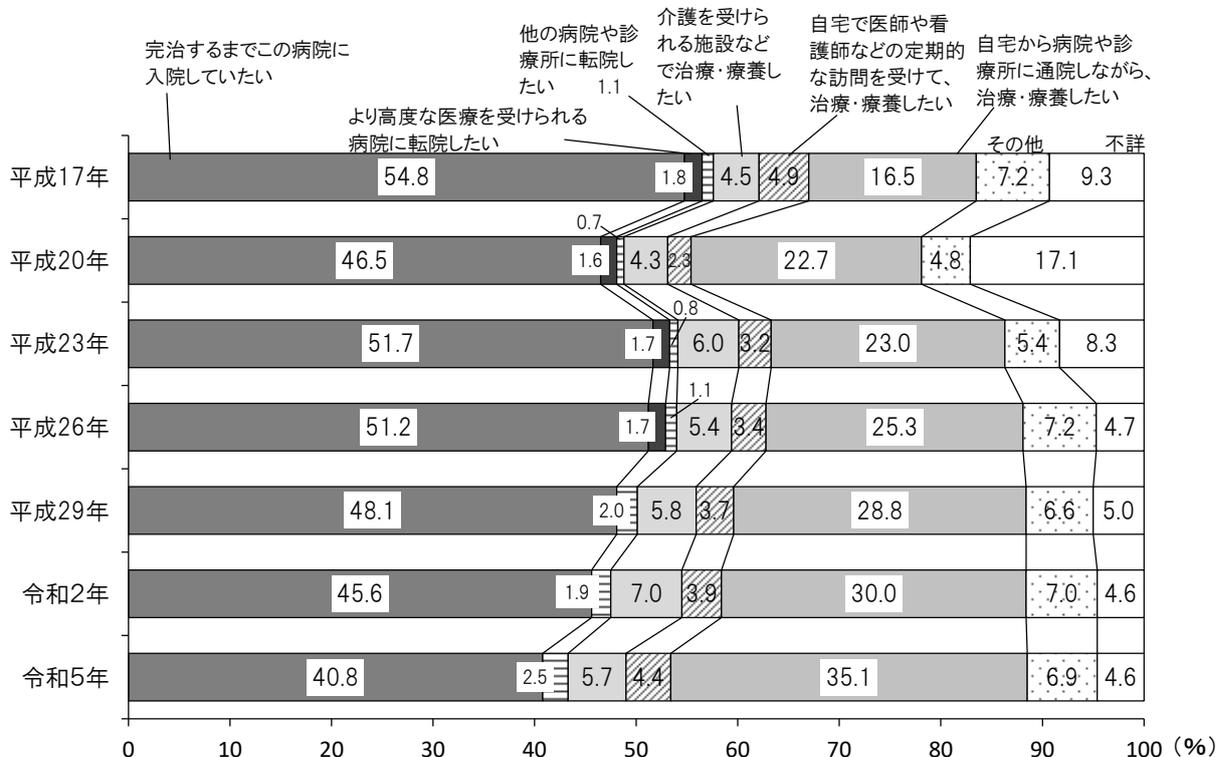
病院の種類別にみると、「完治するまでこの病院に入院したい」は、療養病床を有する病院で43.5%と最も高く、「自宅から病院や診療所に通院しながら、治療・療養したい」は、特定機能病院で47.0%と最も高くなっている。（表5）

表5 病院の種類別にみた入院患者の今後の治療・療養の希望

	令和5年							
	総数	完治するまでこの病院に入院したい	他の病院や診療所に転院したい	介護を受けられる施設などで治療・療養したい	自宅で医師や看護師などの定期的な訪問を受けて、治療・療養したい	自宅から病院や診療所に通院しながら、治療・療養したい	その他	不詳
総数	100.0	40.8	2.5	5.7	4.4	35.1	6.9	4.6
特定機能病院	100.0	39.7	2.4	1.3	2.3	47.0	4.7	2.6
大病院	100.0	38.2	2.3	2.0	2.7	46.0	5.7	3.1
中病院	100.0	39.0	2.3	3.8	3.7	41.2	5.9	4.2
小病院	100.0	37.3	2.8	4.9	3.2	40.4	7.5	3.9
療養病床を有する病院	100.0	43.5	2.7	8.7	5.8	25.5	8.1	5.6

年次推移をみると、「完治するまでこの病院に入院したい」は低下傾向となっており、「自宅から病院や診療所に通院しながら、治療・療養したい」は上昇している（図7）。

図7 入院患者の今後の治療・療養の希望の年次推移



注：1)平成23年は、岩手県、宮城県及び福島県を除いた数値である。
2)平成29年以降は「より高度な医療を受けられる病院に転院したい」は「他の病院や診療所に転院したい」と統合した。

7 退院の許可が出た場合の自宅療養の見通し（入院患者のみ）

入院患者の退院の許可が出た場合の自宅療養の見通しをみると、「自宅で療養できる」は63.1%、「自宅で療養できない」は19.4%となっている。

病院の種類別にみると、「自宅で療養できる」は特定機能病院が80.9%と最も高く、「自宅で療養できない」は療養病床を有する病院が30.6%と最も高くなっている。

「自宅で療養できない」と回答した者について、自宅療養を可能にする条件をみると、「入浴や食事などの介護が受けられるサービス」が40.6%と最も高く、次いで、「家族の協力」が35.2%、「療養に必要な用具（車いす、ベッドなど）」が28.7%となっている。

病院の種類別にみると、特定機能病院、大病院及び中病院では「家族の協力」が最も高く、小病院及び療養病床を有する病院では「入浴や食事などの介護が受けられるサービス」が最も高くなっている。（表6）

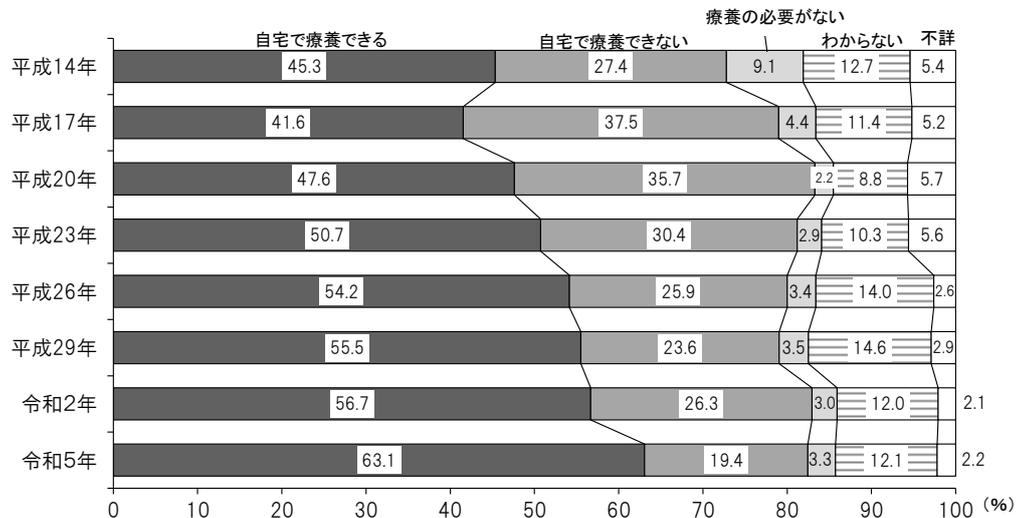
表6 病院の種類別にみた退院の許可が出た場合の入院患者の自宅療養の見通し

(単位:%) 令和5年

	総数	自宅で療養できる	自宅で療養できない	自宅療養を可能にする条件（複数回答）											療養の必要がない	わからない	不詳
				家族の協力	入浴や食事などの介護が受けられるサービス	通院手段の確保	医師、看護師などの定期的な訪問	緊急時の病院や診療所への連絡体制	（服薬・リハビリ指導など）	療養のための改築（手すりの設置など）	療養に必要な用具（車いす、ベッドなど）	その他	どの条件が整えばいいのかわからない	不詳			
総数	100.0	63.1	19.4 (100.0)	(35.2)	(40.6)	(23.9)	(23.0)	(22.8)	(25.7)	(23.0)	(28.7)	(23.2)	(12.1)	(5.2)	3.3	12.1	2.2
特定機能病院	100.0	80.9	6.6 (100.0)	(45.1)	(33.5)	(36.2)	(22.6)	(31.3)	(31.5)	(18.7)	(24.2)	(15.0)	(4.9)	(2.4)	3.6	8.1	0.8
大病院	100.0	76.9	8.1 (100.0)	(45.5)	(37.0)	(28.7)	(22.6)	(25.5)	(32.7)	(23.5)	(31.6)	(15.6)	(7.3)	(2.5)	4.5	9.1	1.3
中病院	100.0	72.6	11.5 (100.0)	(42.9)	(41.9)	(27.2)	(22.3)	(22.9)	(32.0)	(25.4)	(31.5)	(15.7)	(8.7)	(2.8)	3.9	10.1	1.9
小病院	100.0	66.4	14.4 (100.0)	(35.1)	(39.8)	(24.3)	(21.2)	(20.5)	(24.7)	(22.8)	(27.0)	(17.0)	(11.2)	(6.6)	4.1	13.3	1.8
療養病床を有する病院	100.0	49.6	30.6 (100.0)	(32.1)	(40.8)	(22.3)	(23.3)	(22.5)	(23.4)	(22.4)	(28.0)	(26.4)	(13.6)	(6.1)	2.3	14.7	2.9

退院の許可が出た場合の自宅療養の見通しの年次推移をみると、「自宅で療養できる」は平成20年以降上昇している。前回と比べると、「自宅で療養できる」が6.4ポイント上昇し、6割を超えている。（図8）

図8 退院の許可が出た場合の入院患者の自宅療養の見通しの年次推移



注：平成23年は、岩手県、宮城県及び福島県を除いた数値である。

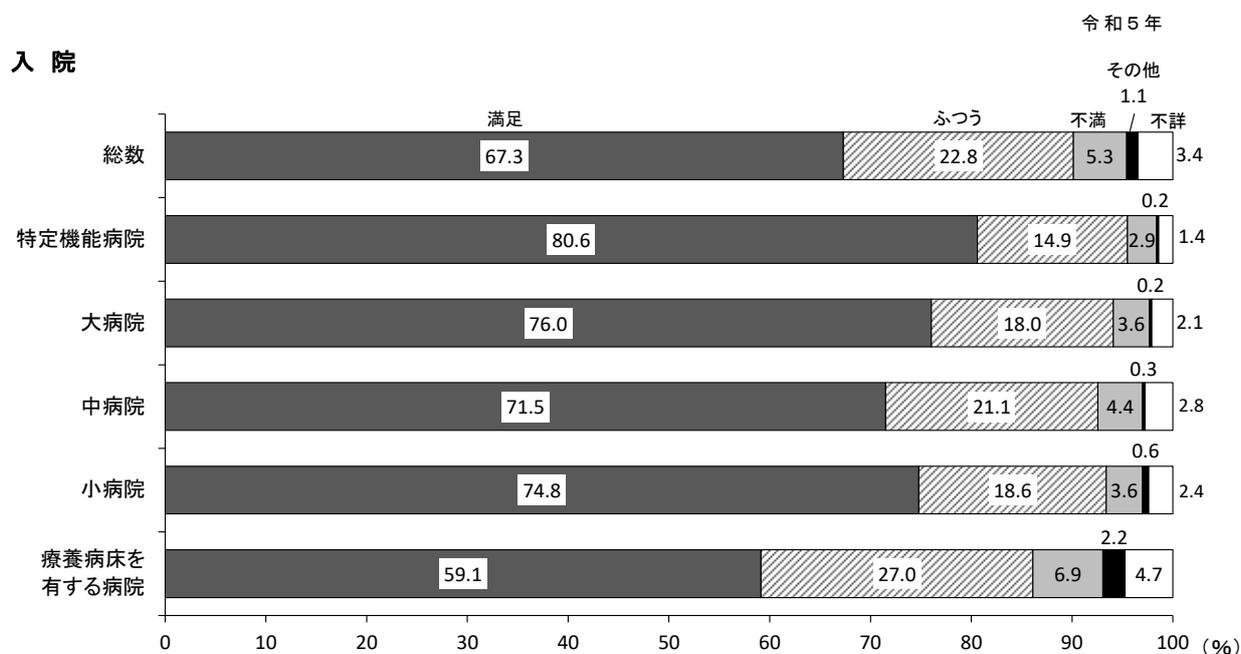
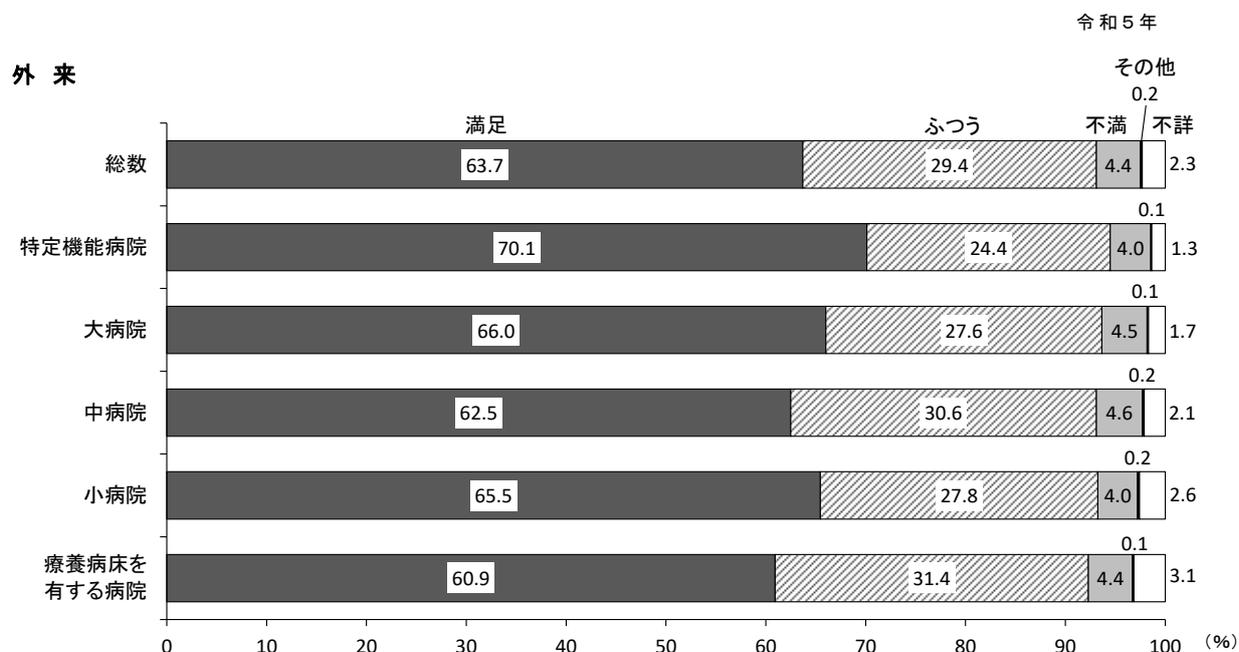
8 満足度

(1) 病院に対する全体的な満足度

全体としてこの病院に「満足」していると回答した者は、外来で 63.7%、入院で 67.3%、「不満」であると回答した者は、外来で 4.4%、入院で 5.3%となっている。

病院の種類別にみると、「満足」していると回答した者は、外来、入院ともに特定機能病院で最も高くなっている。(図9、統計表5、6)

図9 病院の種類別にみた病院に対する全体的な満足度(外来・入院)

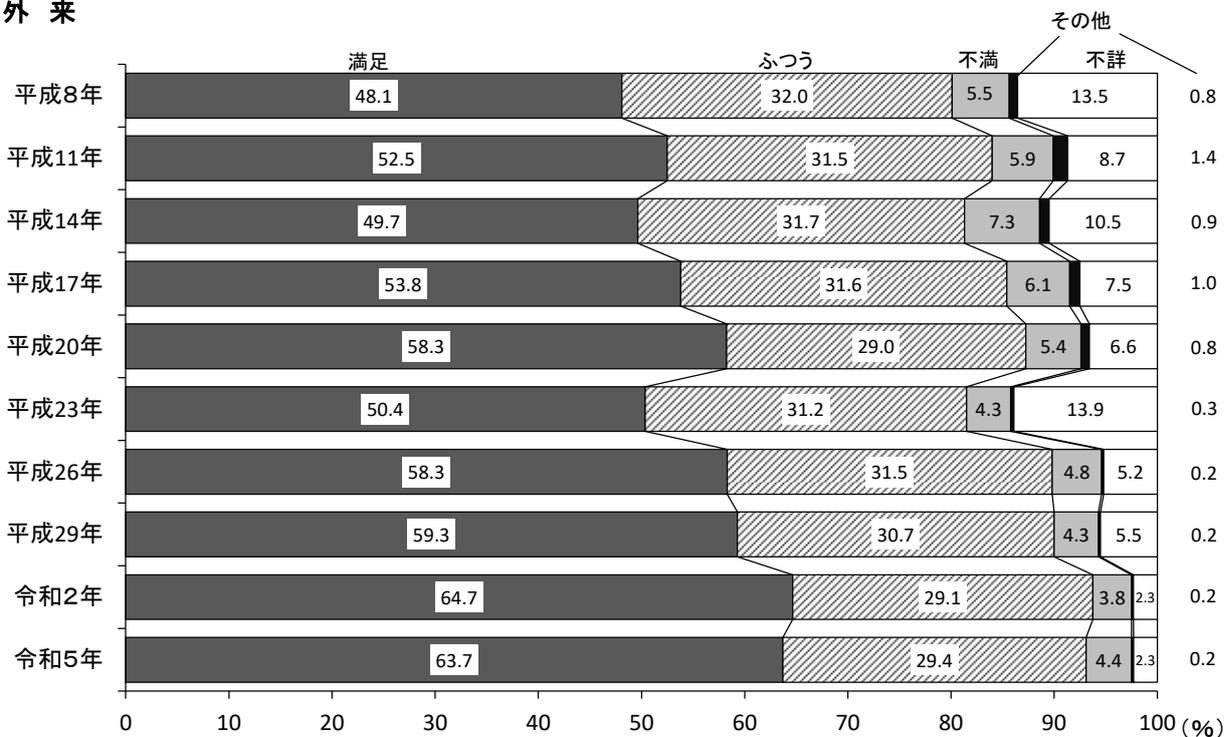


(2) 病院に対する全体的な満足度の年次推移

全体的な満足度の年次推移をみると、「満足」していると回答した者は、平成 26 年以降、外来では6割程度、入院では7割程度で推移している(図 10)。

図 10 病院に対する全体的な満足度の年次推移(外来・入院)

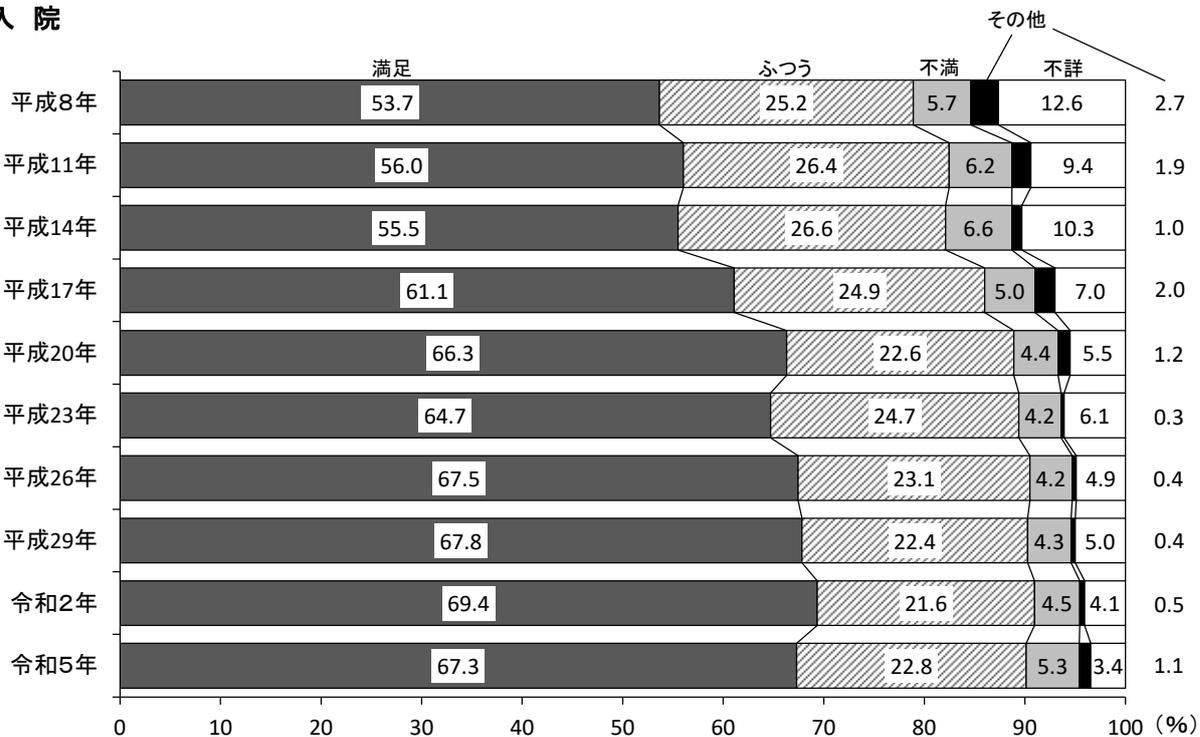
外 来



注：1)平成 23 年は、岩手県、宮城県及び福島県を除いた数値である。

2)「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。

入 院



注：1)平成 23 年は、岩手県、宮城県及び福島県を除いた数値である。

2)「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。

(3) 項目別満足度

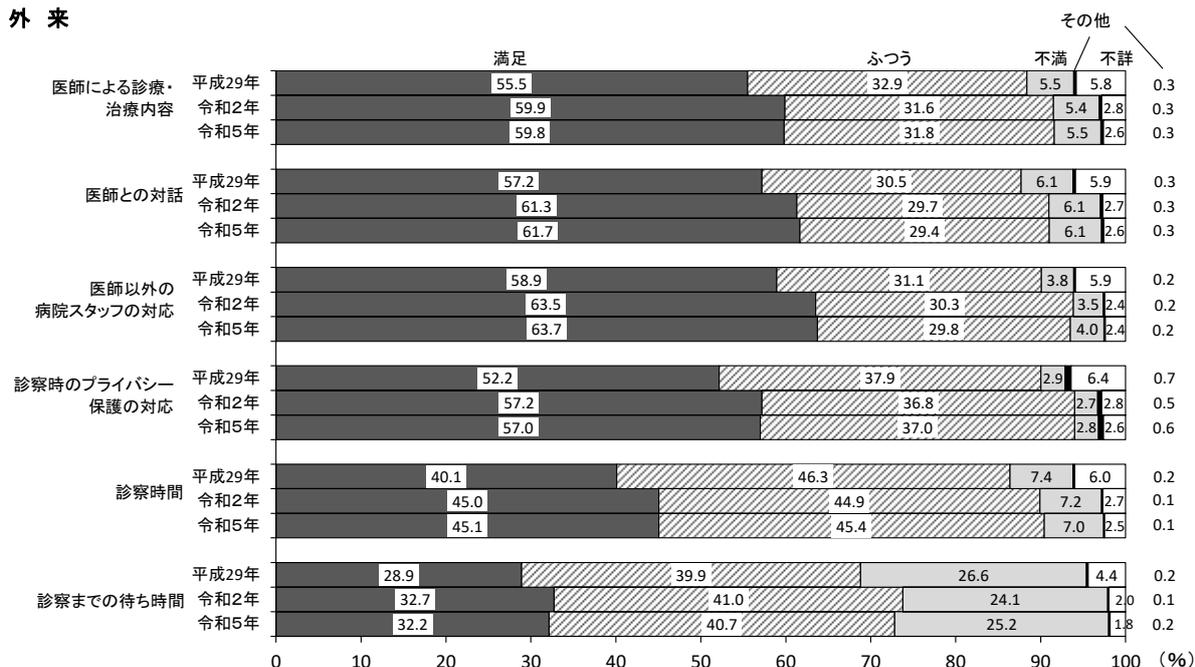
項目別の満足度をみると、「満足」していると回答した者が高いのは、外来、入院ともに「医師による診療・治療内容」「医師との対話」「医師以外の病院スタッフの対応」となっており、外来で約6割、入院で約7割となっている。

一方、「不満」であると回答した者が最も高いのは、外来では「診察までの待ち時間」が25.2%、入院では「食事の内容」が15.4%となっている。

また、前回と比べると、外来、入院ともに全ての項目で「満足」はほぼ横ばいとなっている。(図11、統計表5、6)

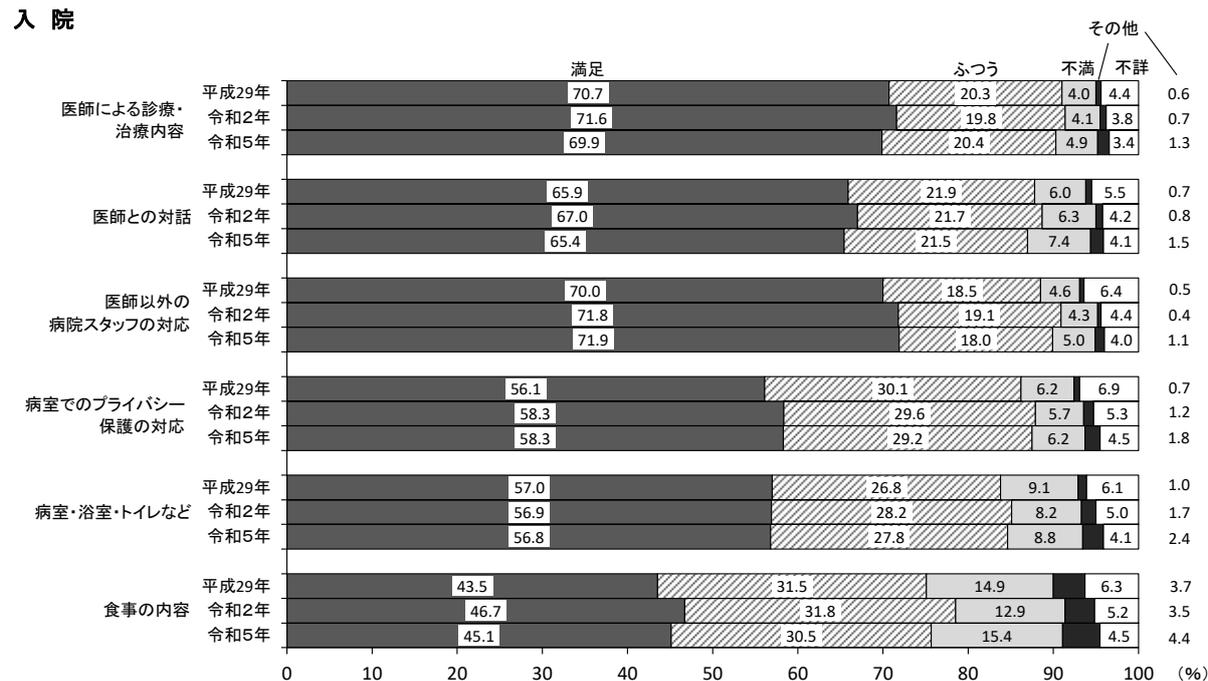
図11 項目別にみた満足度(外来・入院)

外来



注：1)「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。
2)「診察時間」及び「診察までの待ち時間」は「医師に診てもらっていない」者を除いた数値である。

入院



注：「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。